

サステナビリティ担当役員メッセージ

伊藤ハム米久グループは、
事業を通じて持続可能な社会の実現と、
健やかで豊かな社会の実現に貢献していきます



当社グループはSDGsの目標達成に貢献していきます



取締役常務執行役員
コーポレート担当
サステナビリティ委員会委員長

伊藤 勝弘

サステナビリティに関する基本的な考え方

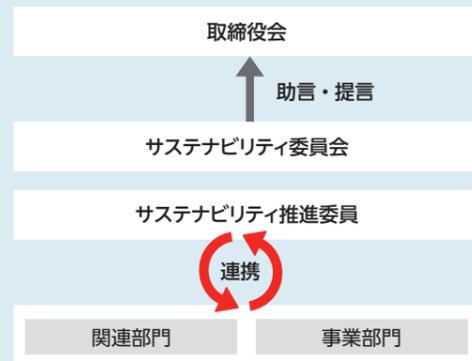
伊藤ハム米久グループは、グループ理念に基づいて持続可能な社会の実現に貢献します

伊藤ハム米久グループの理念

私たちは事業を通じて、健やかで豊かな社会の実現に貢献します

サステナビリティ推進体制

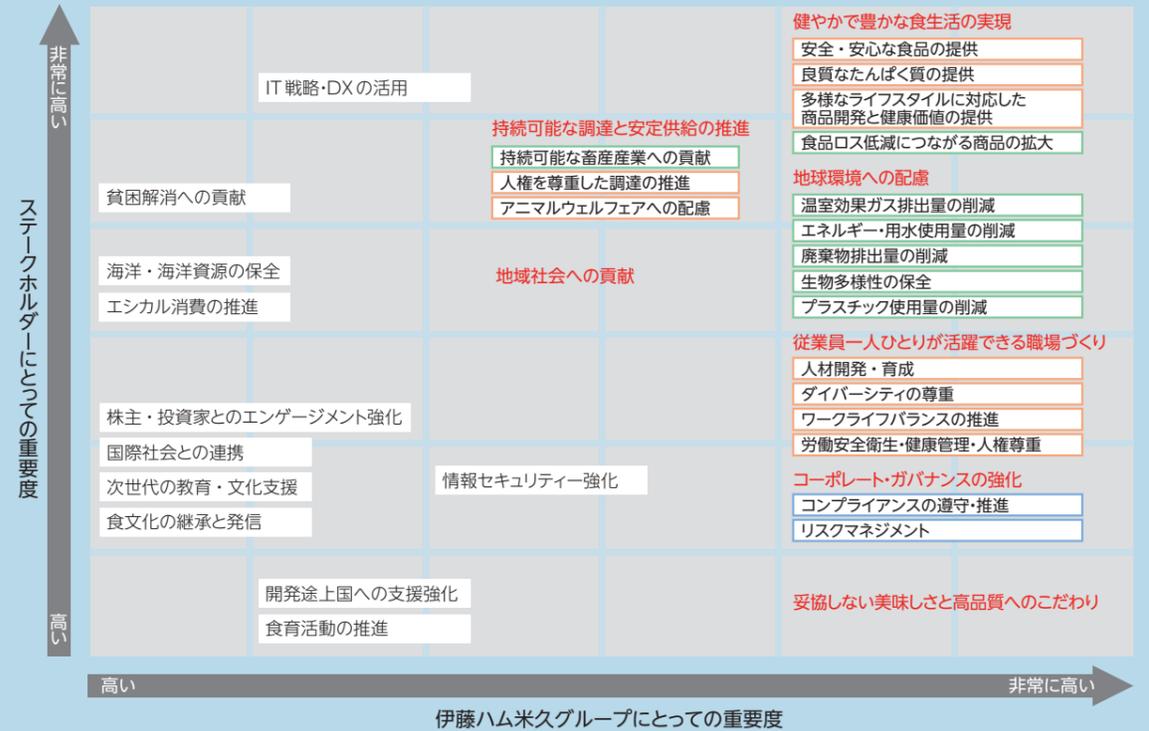
2021年4月にサステナビリティ委員会を設置し、担当役員を委員長として「基本的な考え方」や「マテリアリティ」の策定、およびその具体的な取り組みを推進しています。



マテリアリティ

- 1 健やかで豊かな食生活の実現**
 - 安全・安心な食品の提供 ●良質なたんぱく質の提供
 - 多様なライフスタイルに対応した商品開発と健康価値の提供
 - 食品ロス低減につながる商品の拡大
- 2 地球環境への配慮**
 - 温室効果ガス排出量の削減 ●エネルギー・用水使用量の削減
 - 廃棄物排出量の削減 ●生物多様性の保全
 - プラスチック使用量の削減
- 3 従業員一人ひとりが活躍できる職場づくり**
 - 人材開発・育成 ●ダイバーシティの尊重
 - ワークライフバランスの推進 ●労働安全衛生・健康管理・人権尊重
- 4 持続可能な調達と安定供給の推進**
 - 持続可能な畜産産業への貢献 ●人権を尊重した調達の推進
 - アニマルウェルフェアへの配慮
- 5 地域社会への貢献**
- 6 コーポレート・ガバナンスの強化**
 - コンプライアンスの遵守・推進 ●リスクマネジメント
- 7 妥協しない美味しさと高品質へのこだわり**

マテリアリティ（重要課題）・マトリックス



サステナビリティ委員会で「ステークホルダーにとっての重要度」と「伊藤ハム米久グループにとっての重要度」の観点から重要な社会課題を上記の通り抽出し、その中でも特に優先度の高い7つの課題をマテリアリティとして抽出し、それらを取締役会で決議しました。また、マテリアリティに含まれない課題についても重要な課題として、継続的に適切な対応を進めていきます。

サステナビリティについて

当社グループは、グループ理念に基づき、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献していくことをサステナビリティの基本方針としています。すなわち、事業の持続可能性も高めつつ、社会の持続可能性を高めていくことが重要と考えており、社会の持続可能性に関する課題が、当社グループの事業に影響を与えるリスクとチャンスとを的確に把握して、事業戦略に反映していくことが大事だと考えています。

これまで、環境面からの課題に対しては、エネルギー使用量や用水使用量、廃棄物排出量、プラスチック使用量の削減などに取り組み、具体的には、廃食油ポイラーや太陽光パネルの導入、最新設備の導入によるエネルギー効率の改善、包装フィルムの薄膜化、食品残渣の飼料への活用、物流の効率化などを推進してきました。また、人材の育成や地域社会への貢献、コーポレート・ガバナンスの強化など、社会と事業の持続可能性を高めるためにさまざまな角度から取り組んでいます。

当年度から始まった「中期経営計画2023」では、これらの取り組みをさらに進化させ、事業を通じて社会の持続可能性の向上に貢献していくために、本年4月に取締役会の下にサステナビリティ委員会を設置し、各部門の代表者が参加して課題を総合的に捉え、全社的に連携して取り組んでいく体制としました。同委員会では、社会の持続可能性の課題が当社事業の持続可能性に影響を与えるリスクとチャンスを分析・検討した上で、取締役会としてサステナビリティに関する基本的な考え方とマテリアリティを設定し、それぞれの課題に対して、具体的な対応策と定量目標を設定して取り組んでいます。

このように、社会の持続可能性と事業の持続可能性を両立できるように事業運営をしていくことで、「私たちは事業を通じて、健やかで豊かな社会の実現に貢献します」というグループ理念を実現していきたいと考えています。